

令和6年度の事業実施状況

令和6年度 佐賀県立図書館 利用状況

○概要

本年度は、11月から図書館の外壁工事（～R7.8月予定）が始まっており、工事の音と駐車場の台数減の影響が懸念されたが、11月から2月までの4か月間の入館者数を見てみると、74,631人に対し前年度の同月期間は73,503人であり、大きな影響は受けていないとみられる。また、年間の入館者数は前年度とほぼ同じとなる見込である。

なお、個人の貸出利用者数及び貸出点数はここ10年間の中で、令和元年度をピークに減少し続けている。また、インターネット予約件数も令和4年度から減少している。これは新型コロナウイルスによる影響や電子書籍等の普及など要因が考えられる。

また、新型コロナを契機とした非来館対応のために令和3年度（令和4年3月）から導入した電子書籍は資料数の増加に伴い、既に前年度末の閲覧数を超える閲覧数となっている。

○利用状況（令和6年4月～令和7年2月）

区分 年度等	入館者数	個人貸出 利用者数	個人貸出 点 数	インターネット 予約件数
令和6年度 (2月末)	237,985人	52,198人	173,070点	14,922件
令和5年度 (2月末)	237,235人	54,280人	184,850点	16,077件
対前年度比	100.3	96.2	93.6	92.8
令和5年度末	258,759人	59,086人	201,649点	17,481件

※令和6年度は速報値、令和5年度は確定値

○電子書籍閲覧資料の状況 ※電子書籍は貸出ではなく閲覧

区 分	令和3 年度末	令和4 年度末	令和5 年度末	令和6 年度	累計
電子書籍購入数	394	372	407	364	1,537
成人	371	324	377	324	1,396
児童	23	48	30	40	141
閲覧数	113	1,226	1,332	1,714	2,241

※令和3年度は3月のみの実績（3月から開始）

※令和6年度は2月末時点の実績

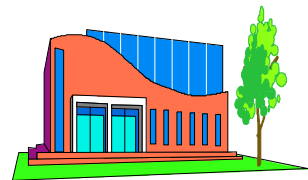
令和6年度 チーム司書ネットワーク等推進事業

【事業目的】

県立図書館の司書が中心となって、市町立図書館の司書等とのネットワークを強化し、各図書館等のニーズに応じた支援の充実及び県内司書のレベルアップを図ることにより、県民が本に親しむ環境づくりの充実を図る。

【事業実績】

- ・新刊児童書等の活用・広報
- ・テーマ別研究会等の運営
- ・チーム司書ネットワークの運営



1. 新刊児童書等の活用・広報

「県内トップがおすすめる児童書」の紹介や、市町立図書館への新刊児童書の一括貸出、特別支援学校での出張おはなし会などを実施し、県立図書館で全点購入している新刊児童書等を、広くPRするとともに利活用を促進した。

(1) 「県内トップがおすすめる児童書」の紹介

県内各分野のトップがおすすめる児童書を、『子ども佐賀新聞』に、年間6回（奇数月）掲載するとともに、推薦者の自筆によるPOPとおすすめる本を館内「こころざしの森」に展示した。

また、2024 国スポ・全障スポの開催期間にあわせ、これまでの新聞掲載分の中からスポーツ選手を特集し、館内で一斉展示し、児童書の利活用を促進した。

さらに、新聞掲載記事を県立図書館のInstagramで紹介し、県内だけでなく、広く一般の方にもPRした。

(2) 新刊児童書の一括貸出

県立図書館が全点購入する新刊児童書について、希望する市町立図書館に対し、一括して貸出しを行い、選書や司書研修の資料として活用した。

また、貸出利用館には、近隣の他の図書館や学校からも、選書などの参考にするため、新刊児童書の閲覧に来館されており、貸出利用館だけでなく他の図書館にも広く活用いただいている。

令和6年度は、7市町（鳥栖市、多久市、鹿島市、嬉野市、みやき町、玄海町、白石町）に貸出しを行った。

(3) 学校等への支援

特別支援学校に対する児童書を活用した出張おはなし会の実施や学校等が実施する各種研修会等に講師（県立図書館職員）を派遣し、学校等が必要とする支援などを行った。

○特別支援学校を対象とした「出張おはなし会」の実施

特別支援学校の児童生徒等が本に触れ合う機会を増やすことなどを目的として、県立図書館司書が特別支援学校に出向いておはなし会を実施する取り組みを、令和5年度から実施している。

毎回、それぞれの学校の特性や要望を考慮し、工夫を凝らしたプログラムを組んでいる。

令和6年度は前年度を上回る学校に御利用いただいた。

(開催実績)

令和5年度：3校、延べ6回

令和6年度：5校、延べ20回 (R7.3.21現在)

○研修会等への講師（県立図書館職員）の派遣

県立図書館職員が、他図書館や他所属が実施する図書館関係の研修会などに出向き、図書館業務について講義などを行い、職員のスキルアップの機会を提供した。

令和6年11月からは「県立図書館出前講座」として、複数のテーマを設定し、公共図書館や学校等に研修の機会を提供した。

(令和6年度実績)

- ・ 県立学校司書研修会…… 1回 約40名参加
 - ・ 県内図書館館内研修(*)… 3回 (3館×各1回) 延べ約90名参加
- * 「県立図書館出前講座」として開催した。

2. テーマ別研究会等の運営

県立図書館が中心となって、「レファレンス研究会」、「児童サービス研究会」、「読書バリアフリー検討会」及び「読書バリアフリー研修会」を運営し、県内司書等のレベルアップを目的として、以下の研修等を実施した。

(1) レファレンス研究会 (年4回)

月	内容	テーマ
令和6年5月31日	講演・実演	聞こえにくい利用者とのコミュニケーション ※読書バリアフリー検討会と共催
令和6年7月11日	説明・見学	唐津くんちの歴史
令和6年11月1日	講演	課題解決型サービスのこれから 攻めのレファレンス
令和7年1月24日	講演	読書が苦手な人にアプローチするレファレンス

(2) 児童サービス研究会（年4回）

月	内容	テーマ
令和6年4月26日	説明・見学	佐賀県立視覚障害者情報・交流センター“あいさが”見学会 ※読書バリアフリー検討会と共催
令和6年6月21日	講演・実演	はじめようブックトーク、ブックトーク実演
令和6年12月6日	講演・ワークショップ	展示用POP作成
令和7年2月13日	講演	言葉の力 絵の力 ～本作りの過程で教わったこと～（予定）

(3) 読書バリアフリー検討会（年3回）

月	内容	テーマ
令和6年4月26日	説明・見学	佐賀県立視覚障害者情報・交流センター“あいさが”見学会 ※児童サービス研究会と共催
令和6年5月31日	講演・実演	聞こえにくい利用者とのコミュニケーション ※レファレンス研究会と共催
令和7年2月28日	講演	市町の読書バリアフリー推進計画の作り方

(4) 読書バリアフリー研修会（年1回） ※佐賀県学校図書館教育研究会との共催

月	内容	テーマ
令和6年8月1日	講演	<第1部> 一人ひとりのニーズに寄り添い 多様な学びを支える学校図書館 ～特別支援学校における図書館教育実践～
	発表	<第2部> 県内図書館等の取り組み事例紹介

3. チーム司書ネットワークの運営

知の拠点となる図書館づくりにおいて重要な役割を担う司書を対象として、館の垣根を越えた交流の場を設けることにより、ネットワークの形成を促進し、県内図書館の連携強化を図った。

(1) 第5回「司書のつどい」の開催

県内の市町立図書館、公民館図書室、大学図書館、学校図書館などに勤務する司書等を対象として、今年度で5回目となる「司書のつどい」を開催した。

[期日]令和7年2月5日（水）

[場所]ホテルニューオータニ佐賀（佐賀市）

[内容]・事例発表、イチオシ本の紹介

- ・佐賀県公共図書館司書表彰、スクール読書チャレンジ運動表彰
- ・鼎談（講師、司書、佐賀県知事）
- ・講演（日本読書療法学会 会長 寺田真理子氏）
- ・交流会（参加者による自由意見交換）
- ・ミニ分科会（ボードゲーム、図書館連携）



【会場前にロゴパネル掲示】



【参加者のイチオシ本の紹介】



【表彰：記念写真撮影】



【鼎談：記念写真撮影】



【会場内の展示：帯プロジェクト】



【会場内の展示：ボードゲーム】

（2）市町立図書館等への訪問

県立図書館のリーダー司書等が、年3回、県内全ての公共図書館、公民館図書館書を巡回訪問し、各図書館の司書や職員等と意見交換をしながら、必要に応じた支援や技術的助言等を行い、連携強化を図った。

また、公共図書館の本館だけでなく分館や、県内の施設内図書館の訪問なども行った。

令和6年度 郷土資料利活用推進事業

【事業目的】

県立図書館に所蔵している県民の貴重な財産である郷土資料の修理・保存、公開及び活用を図る。

【事業実績】

- ・郷土資料（歴史資料）のデジタル化・公開
- ・東京大学史料編纂所との共同研究
- ・佐賀県歴史資料総合調査事業

1. 郷土資料のデジタル化・公開

郷土資料のうち、佐賀藩に係る歴史資料をデジタル撮影し、画像データを「佐賀県立図書館データベース」で公開する。

(1) 令和6年度の撮影・公開対象資料群と撮影件数

- | | | |
|--------------------|---|-----|
| ・蓮池鍋島家資料（主として近世） | : | 19件 |
| ・西魚町北島家資料（幕末～近代） | : | 72件 |
| ・浜崎溝江家資料（近世～近代） | : | 78件 |
| ・佐賀県明治行政資料（主として近代） | : | 8件 |

(2) データ公開 令和7年3月末～4月初旬予定

2. 東京大学史料編纂所との共同研究（坊所鍋島家文書研究会）

東京大学史料編纂所や県内の研究者と共に、館蔵の坊所鍋島家資料を素材とする共同研究を継続実施した。当面の目標として令和7年度までに佐賀藩祖鍋島直茂や初代藩主勝茂の書状等約500通の検討を行うこととしており、令和6年度は参加者14名で、計4回の研究会（対面及びリモート）において計162通の文書の読み合わせを行った。

(1) 研究会の開催

- | | | |
|-------|------------------|-----------|
| ・第7回 | 令和6年6月8日～10日 | 東京大学史料編纂所 |
| ・第8回 | 令和6年6月22日 | リモート |
| ・第9回 | 令和6年11月29日～12月1日 | 佐賀県立図書館 |
| ・第10回 | 令和6年12月14日 | リモート |

3. 佐賀県歴史資料総合調査事業

市町図書館・文化財担当者と連携した県内資料保存活動を進めるために、佐賀県文化課文化財保護・活用室との共催で、市町の担当者を対象とする資料保存研修会を開催した。

(1) 日時 令和6年9月5日(木)13時～16時45分

(2) 研修内容 ①歴史資料の受入から保存まで

講師：図書館 郷土資料調査・編さん課職員

②人権資料の取扱い実務について

講師：中村久子氏（佐賀部落解放研究所研究員）

(3) 参加者数 39名



令和6年度 図書資料の配送（相互貸借）について

【目的】

佐賀県では、“だれでも、どこでも、なんでも”必要な情報が手に入る図書館先進県づくりを進めており、その一環として、県内の公共図書館等が所有する図書資料を広く県民に提供（相互貸借）し、利用者サービスの向上を図るため、県内の公共図書館等を結ぶ「物流システム」を平成22年度から整備している。

【佐賀県の物流システムの特徴】

- ・週3回の集配を実施し、希望する図書資料が利用者のお手元に最短で翌日に届く。
- ・集配センター機能も委託しており、県立図書館が休館であっても物流は稼働する。
- ・「物流システム」に係る経費は、佐賀県が負担する。

1. 令和6年度の実績

令和5年度から、県内全ての大学図書館を追加した物流体制を構築し、令和6年度も引き続き物流の積極的な利活用を図った。

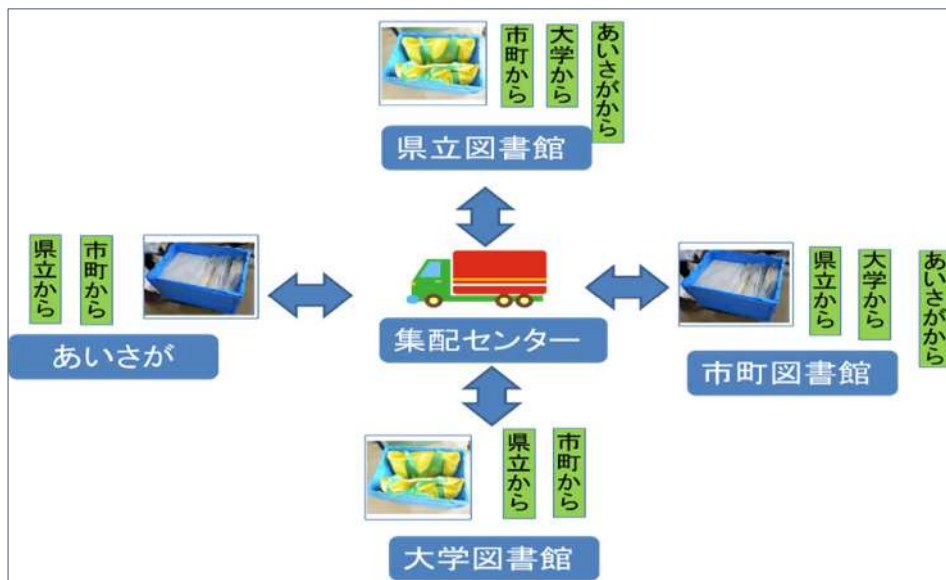
相互貸借の拡充により、各館からは利用者サービスがさらに向上したと大変好評で、これまで交流の少なかった図書館・司書等間の連携も深まった。

なお、現時点で図書資料の相互貸借を行っている館は以下のとおりである。

[利用館（本館のみ／全26館）] ※分館・分室には各本館から送付する。

- ・公共図書館等（21館）
 - 県立図書館（1館）、市町立図書館及び公民館図書室（20館）
- ・点字図書館（1館） ※令和4年度から追加
 - 佐賀県立視覚障害者情報・交流センター“あいさが”
- ・大学図書館（4館） ※令和5年度から追加
 - 佐賀大学、西九州大学、佐賀女子短期大学、九州龍谷短期大学

佐賀県の物流体制のイメージ



令和6年度 子どものころざしスポット充実事業

【事業目的】

県立図書館が所蔵する児童書を、地域コミュニティの中にある子どもたちの身近な場所（ころざしスポット）に届けることにより、子どもたちが本と触れ合う機会を増やし、地域・家庭における子どもの読書活動の推進を図る。

1. 令和6年度の実施

平成27年度から新刊児童書全点購入を実施し、貸出や市町図書館での選書や研究に活用している。

子どもたちが本を手にとる機会を増やすため、児童書をさらに有効活用し、子どもたちに身近な場所（ころざしスポット）に県立図書館が所蔵する児童書を提供する。

2. 児童書提供先

提供対象児童書の種類によって、提供対象施設を選定し募集を行った。

今年度は、「子育て応援の店」「放課後児童クラブ」「こども食堂」などの子どもたちの身近な場所を対象とした。10月末申込締切りとし、87施設より応募があり、12月に2,175冊（87箇所×25冊）を贈呈



(参考) これまでの実施

平成28年度～30年度において、子ども向け図書コーナーの新設や充実を図る施設（地域における子どもの居場所）に県立図書館司書が選書した児童書を配布。

この事業において子ども向けの図書コーナーを新設・充実された施設を「ころざしスポット」と称する。

保育所、放課後児童クラブ、小児医療機関等、481か所となっている。

受領報告・コメント



子どもたちに県より本を寄贈していただいたことを紹介すると、すぐ興味のある本に手を伸ばし、集中して読んでいました。男の子たちには虫や妖怪の本が人気で、一人で読んだり友達と読み合ったり、本の世界を楽しむことができていました。

令和6年度 施設改修及びその他事業

1 佐賀県立図書館 旗掲揚ポール撤去工事

県立図書館の駐車スペース横に設置しているポールは老朽化しており、周囲は人の通行や建物・構造物があることから、倒壊による事故等を防ぐため撤去した。

(工期：令和6年5月17日～令和6年5月31日)



2. 蔵書整理

県立図書館は、書庫の収蔵力(約101万冊)に対し、約9割弱にあたる約90万冊の資料を所蔵している。これまで書庫内の書架棚増設、書庫整備など、収蔵力の確保に取り組んできたが、収蔵力を維持することが厳しい状況になりつつある。

図書館の役割として必要な資料を受け入れ、提供し続けていくためには、収蔵力を維持する必要があるため、今年度から、書庫内の全資料の確認・整理に取り組み、資料価値を失ったもの、代替資料があるものなどの除籍を進めている。

(1) 取組状況

郷土資料など一部を除き、書庫内資料の確認・整理を実施。すべての資料は司書が確認、その意見等を踏まえて整理、対応を判断。

①確認・整理の対象とする資料

- ・統計などデータ化、デジタル化されているもの
- ・古い一般書籍等で実用書など利用価値を失っているもの
- ・代替資料があるもの
- ・国立国会図書館に所蔵があるもの など

②確認した資料に応じた整理、対応

[所管換え]

- ・郷土に関連する記述があるものは、当館郷土資料課の資料として保存

[管理換え]

- ・県立博物館施設で保存(参考となる他県の資料等)

[除籍]

- ・資料が資料的価値を失い、保存する必要がなくなったもの
- ・重複資料、類似資料があるため保存する必要がなくなったもの など

③実施数 (R7.2 末現在)

- ・除籍数(他施設への管理換え含む) 9,672冊

令和6年度 企画展示・情報発信状況

○展示ホールでの企画展示

当館司書が月毎に時世や話題のテーマを取り上げた展示や県庁内各課とコラボし、当館で所蔵している関連本を集めた展示を行っている。

【企画展示・情報発信 実施状況】

月別	大展示	コラボ展示等	その他
4月	世界一を読む	・マニャーの交通マナー講座	・児童 ・ティーンズ ・文学賞 ・追悼展示 等
5月		・さかの木の住まいコンクール	
6月	日記の世界	・男女共同参画週間パネル展 ・フッ化物洗口なぜしている？	
7月	武芸百般	・みんなで育てよう！ さかの森林佐賀県森林環境税	
8月	図書館水族館		
9月	本を開けばそこは宇宙 (ユニバース)	・9月は認知症月間 ～共に生き ともに歩もう 認知～ ・8月は同和問題強調月間です ・9月は健康増進普及月間 ～4つの健康ライフで生活習慣病を予防しよう～	
10月	SAGA2024 国スポ・全障スポ	・SAGA2024 新しい大会へ。 すべての人に、スポーツのチカラを。 ・労使間のトラブル相談は、佐賀県労働委員会へ	
11月	1874 ～印象派 150周年～	・子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物 ・食育・食品ロスについて ・見直そう！ハブラシお手入れ方法	
12月	平安絵巻	・やきものの町のクリスマス ・相手を大切に思う気持ちを育てよう ・加唐小中学校及び小川中学校生徒が制作した アップサイクルグッズ及び調査結果発表パネルの展示 ・あなたの好奇心に寄り添う学びがあります	
1月	初笑い 2025	・ニセ電話詐欺等に注意しよう！ ・犯罪被害者等支援について学ぼう ・舞台は三重津海軍所跡！ミステリー小説公開中！	
2月	葛屋重三郎と江戸文化	・木を使うことの良さ	
3月	ときめくひなまつり	・こころのとしょかん	

令和6年5月
さかの木の住まいコンクール



令和6年4月、5月
世界一を読む



令和6年10月 9月は認知症月間 ～共に生き ともに歩もう 認知～



令和6年10月
SAGA 2024 展示



令和7年1月
舞台は三重津海軍所跡！ミステリー小説公開中！

